



みんなが集う みんなのでつくる

あさぶ



自分たちの力で

北区では「区民が主体的に考え行動できるまち」を目指し、地域住民によるまちづくり活動を支援しています。

今月は、さまざまな団体が連携しながら、自分たちの手でまちづくりに励んでいる「北区麻生まちづくり協議会」を紹介します。

「多少時間が掛かっても、自分たちでできることは、地域が協力しながら取り組んでいます」と話すのは、北区麻生まちづくり協議会の大門隆司^{だいもんたかし}会長。

同協議会には、町内会や学校など地域の43団体が参加。老人クラブと小学生が、種から育てた花苗を地域に植える美化運動や、町内会や学校・PTAが合同でパトロールする防犯活動など「活力」「安らぎ」「潤い」をテーマに、構成団体が連携、協力しながら多彩な事業を展開しています。

昨年1月からは、地域の拠点となる麻生まちづくりセンターの運営も担っており、地域のまちづくりの核として活動しています。

まちを知ることから

「まちを知ることによって地域への愛着が湧き、もっと良くしたいという気持ちも生まれます」と語る大



球場ならではの投球体験！



イベントであいさつする大門会長

門会長。同協議会では、自分たちの住むまちで休日を楽しんでもらおうと、地域の資源を活用したイベントを企画しました。

6月に麻生球場で行われた「あさぶ三世代げんき広場」には、家族連れなど約千人が来場。投球体験や外野の芝生でのかけっこ、商店街が協力した縁日は、たくさん笑顔であふれていました。



団体間の調整や年間を通じての活性化など、課題も見えてきたという大門会長。時には行政の力も借りながら、地域が一つになって「麻生」を盛り上げていきたいと力を込めます。

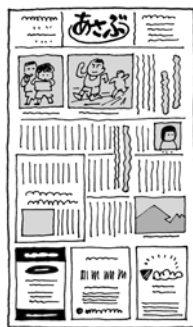
まちを知ることから

今回紹介した「北区麻生まちづくり協議会」では、活動への関心や理解を深めてもらおうと、毎月、地区の全世帯に広報紙「あさぶ」を配布しています。

イベント案内のほか、構成団体の活動や生活情報など、暮らしに役立つまちの情報満載です。

そのほかの地域でも、住民が自分たちの手で、さまざまな地域情報を発信しています。

手軽に入手できる地域の広報紙は、きつとまちを知ることになります。



「まちづくり」と聞くと、何か特別なことのように構えてしまうかもしれません。

一つ一つは小さな活動でも、力を合わせて継続していくことで、地域は変わっていきます。

個人の「思い」を地域の「チカラ」に。まずは、身近な地域の活動に参加してみませんか。